

この項目は編集集中です。

XIMIX

XIMIX は、アメリカのプロレス興行団体。オールド・スクールなアメリカンスタイルの AICW、前衛的で独創的なハードコアスタイルの PANK!、ハードヒット、ハイスピードな新しいジャパニーズスタイルの HELDIO の三団体が団体を休止し、全世界を興行するという合同イベント PReMIX が元になっている。2006 年 3 月から本格的に団体としての活動に移行、選手はそれまでのフリー扱いから所属という形に変わった。

歴史

■ PReMIX 時代

- ・ 2 リーグ制

- ・ Ange

今回のイベントを取り仕切る制作会社から派遣された責任者レイザー・レモンと全米放送連盟から派遣されたエーデル・スカーレットの二人が放送番組の内容の過激さから対立。どちらが番組の主導権を握るか、というのが Ange の基本的なストーリーライン。

- ・ Dvil

ストーリーが過激な Ange に対し、Dvil は試合内容の過激さが目を引いた。第一回目のショーのメインで AICW と HELDIO のヘビー級王者がヴァーリトゥードルールで戦うなど、それまでアメリカで見られたプロレスとは異なったテイストを GM マイク・マイヤーズは持ち込んだ。

- ・ 終焉

2005 年 11 月 7 日 Ange 『Against the World』にてついに選挙にて Ange の GM となったレモンがその場で観客、スタッフ、レスラーを罵倒、全員解雇という異常なエンディングを迎える。しかし、その中からシャークキッド with カール、荒瀬裕也、マサ・カツラギなど数人のレスラーと再契約、体制側に取り込み、あろうことか 12 月 2 日に開催された Dvil 『Dvil of Rebellion』の会場に現れると、メイン終了後、選手を襲撃。2006 年 2 月 5 日 『Premix the end.』では、両リーグの選手が入り乱れるカードとなったが、エンディングで荒瀬裕也が、AICW、PANK!、HELDIO の各王座を強奪し、統一王者となると宣言をし、レイザー・レモンもこれを承認。PANK! 王座に関し、王者 梶・零式が王座を盗んで王者になるという奇策を用い、これを観客も受け入れたことを逆手に取った荒瀬らしい心理戦がハイライトとなった。

■ XIMIX 時代

06.3.24 The-X

PReMIX のラストで、”統一王者”となった荒瀬だったが『価値の再構築』のためにベルトを全て

返上、新王座設立とトーナメントの開催を提案した。しかし、これに元 PANK! オーナー MAC と パニックキッド が反発、トーナメントなど時代錯誤の五流の人間の提案と切り捨て、ファーストブラッディ・バトルロイヤルでの決着を提案。だが、HELDIO 王座を管理する HELDIO の清水取締役は荒瀬が王者となった事実を一切認めず、次回興行で DK vs デュオ のシングルマッチを HELDIO 認定ヘビー級王座戦と認め、もし統一したいならそこで勝利した王者との統一戦を組むよう要求。興行はこれで終わるかのように思われたが、最後、駐車場で荒瀬が車に乗り込もうとした瞬間、車が爆破。何事かと騒動の中、そこに聞こえたのは、ジェフ・ザ・リッパーの声で『荒瀬・・・・・・・・ウケるわ・・・・・・・・』の一言。

06.5.25 X-2

レーザー・レモン GM はオープニングで突如、メインのファーストブラッディ・バトルロイヤルに出場予定の MAC の解雇を宣言。新たな価値観を作る XIMIX に PANK! に執着する男など必要ないと言い放つ。しかし、そのレモンの前に執行部が決定した新たな GM、かつて AICW で活動していた DEADMAN が登場。レモンは GM 室から連れ出され、MAC の XIMIX 復帰が決定。一方、ジェフ・ザ・リッパーは会場内でフォークリフトを強奪、荒瀬を襲撃するもそこに荒瀬はおらず。ただただ会場が破壊された。セミにて行われた HELDIO ヘビー級王座戦は DK が前王座マックス・ハートのムーヴ”妖刀”ハイキックで デュオ を粉碎した。メインは、最終的にガルサと パニックキッド が残り、キッドの勝利。試合後、キッドは手に入れた XIMIX 統一王者の権利とは別に、AICW から続く DK との遺恨を清算すべく、DK とのシングルに挑むと宣言。DK もこれに応えた。新 GM DEADMAN は XIMIX に新たな展開を生み出すべく、かつて PANK! に登場した怪奇派 Jama-rajā を呼び戻すことを発表する。

06.6.30 Triple X

前回興行で決定した DK vs パニックキッド の XIMIX 統一王者決定戦、Hell in a Cell による完全決着とあり、いつも以上に観客の期待値が高い中、事件は起こる。メイン直前、ショーン・ビュセツ上 が DK を襲撃、血まみれの惨劇となり、病院へ担ぎ込まれた。メインの開催が不可能となり不満の溜まる観客の前に現れたショーンが『スポーツライクなバトルは・・・クソ食らえだ!』と挑発したが、停電の瞬間、ショーンは姿を消し、天井からぶら下げられた金網の天井には Jama-rajā からのメッセージ”キミハボクガタベル”。最後は KID が現れ、観客への謝罪と DK の気持ちを伝えた。今、ショーンが”漆黒の神風”を名乗るきっかけ、Jama-rajā の抗争、KID との軋轢など XIMIX の中軸とも呼ぶべき展開の始まりとも呼ぶべき大会となった。